

# 東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本 欣久	3	前期金曜日4講時	
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論— 彫刻の主題と表現	2	長岡 龍作	4	後期金曜日4講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作.杉本 欣久	3	前期火曜日3講時4講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作.杉本 欣久	4	後期火曜日3講時4講時	
東洋・日本美術史基礎講読	日本近世絵画資料講 読	2	杉本 欣久	3	前期金曜日5講時	
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	長岡 龍作	4	後期金曜日5講時	
東洋・日本美術史講読	絵巻物研究	2	長岡 龍作	5	前期木曜日2講時	
東洋・日本美術史講読	美術資料を読む	2	杉本 欣久	6	後期木曜日2講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	杉本 欣久.長岡 龍作	5	前期火曜日2講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡 龍作.杉本 欣久	6	後期火曜日2講時	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	5	前期月曜日3講時	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	6	後期月曜日3講時	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	前期水曜日3講時	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	後期水曜日3講時	
東洋・日本美術史各論	中国書画の鑑賞と鑑識	2	塚本 磨充	集中	集中講義	

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画史

2. Course Title (授業題目)：Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。

一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in Est Asia.

5. 学修の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of each era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 平安京の思想と美術 一陰陽五行と鬼門ー
- 7 回目 鎮護国家の美術 一平安時代 1ー
- 8 回目 浄土教の美術 一平安時代 2ー
- 9 回目 六道の絵画と絵巻物 1 一平安時代 3ー
- 1 0 回目 絵巻物 2(縁起絵巻と物語絵巻) 一平安時代 4ー
- 1 1 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1ー
- 1 2 回目 蓬萊山の美術・そして富士山へ 一画題研究 4ー
- 1 3 回目 禅の興隆と水墨画 一室町時代 2ー
- 1 4 回目 禅の興隆と道釈人物画 一室町時代 3ー
- 1 5 回目 「魚」を描く意味 一画題研究 5ー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

**1 0. 授業時間外学習：** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB45401, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現
2. Course Title (授業題目)：Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation
3. 授業の目的と概要：古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：If you overview the history of Japanese art from ancient times, you can see that many arts were born out of relationships with faith. Because religions that envision an invisible world need arts that visualizes it. In this course, among the religious arts created in Japan, I focus on sculptures in particular. I explain the essential relationship between religion and art through introducing the arts that the human spirit created.
5. 学修の到達目標：(1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。  
(2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。  
(3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students gain basic knowledge in Japanese art history.  
(2)Students learn the basic methodology of art history research.  
(3)Students learn the knowledge and method, especially about sculpture research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
  1. イントロダクション—仏像とは何か？
  2. 釈迦の表象—仏像と仏舎利
  3. 釈迦如来への信仰と表現
  4. 亡き人のための造像
  5. 薬師寺の美術—薬師如来への信仰と表現
  6. 弥勒への信仰と表現
  7. 観音菩薩への信仰と表現
  8. 靈驗観音の寺
  9. 平等院鳳凰堂—阿弥陀如来への信仰と表現
  10. 天の役割と表現
  11. 地藏菩薩への信仰と表現
  12. 神像の出現
  13. 肖像の表現と役割
  14. 彫像がみちびく世界観
  15. 課題
8. 成績評価方法：  
課題 [60%]、出席 [40%]
9. 教科書および参考書：  
参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年
10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：長岡 龍作. 杉本 欣久

コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of handling artworks

3. 授業の目的と概要：作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.

1. Handling artwork and how to research artworks
2. The thought for exhibition and practice
3. Preparation of art works

5. 学修の到達目標：美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い2
8. 篆書(ハンコ)を読む
9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
11. 「仏像」の基礎と取り扱い
12. カメラの撮影と画像の使用
13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
14. 博物館・美術館見学
15. 取り扱い復習

8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]

9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久

コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of handling artworks
3. 授業の目的と概要：作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
  1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
  2. 展示についての考え方と実践
  3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
  1. Handling artwork and how to research artworks
  2. The thought for exhibition and practice
  3. Preparation of art works
5. 学修の到達目標：美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。  
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

  1. 博物館・美術館見学
  2. 和鏡の複製を作る 1
  3. 和鏡の複製を作る 2
  4. 和鏡の複製を作る 3
  5. 顔料と染料、箔の取り扱い
  6. 美術作品の梱包一「掛軸」と「和鏡」の梱包一
  7. 調書の作成1ー作品の観察一
  8. 調書の作成2ー解説について一
  9. 調書の作成3ー調査方法と記録の取り方1一
  10. 調書の作成4ー調査方法と記録の取り方2一
  11. 博物館での調査
  12. 展覧会の裏側「展示」を考える 一実地学習・藤崎一
  13. 江戸時代の画家を調べる
  14. ミニ展覧会
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。  
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。  
基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目)：Training to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：日本における歴史資料の原典は肉筆で書かれており、活字で出版された現代の本を見るだけでは不十分な場合が多い。なぜなら読み間違いやミスプリントが多々存在するからである。研究を確かなものとするためには原典資料にあたることは不可欠だが、そのためには古文書やくずし字、変体がなを読む訓練を経なければならない。

そこで本講では、日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『都林泉名勝図会』などの版本および実作品に付された賛文の基礎を学ぶ。さらに寺社の縁起や画家の伝記に関して、調査方法を獲得する。

他専修生の受講生も歓迎するので、ぜひこの機会に歴史資料にアクセルするスキルを高めていただきたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides a training program to read "Miyako Rinsen Meisyou Zue" and "Gajyou Youryaku" which are documents related to the paintings of the Edo era.

5. 学修の到達目標：美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read documents related to the paintings in the Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 江戸時代の版本を読む

9 回～14 回 画賛を読む

15 回 読解テスト

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB45501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東洋・日本美術史論文研究

2. Course Title (授業題目) : Study on the papers of Oriental and Japanese art history

3. 授業の目的と概要：東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up basic research papers of Oriental and Japanese art history and carefully read them. One person give a presentation about contents of papers at each class, showing pictures and documents. Participants will read the paper in advance and discuss the content after the presentation.

5. 学修の到達目標：東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the methods to research through reading basic papers on Oriental and Japanese art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*bです。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—東洋・日本美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。

10. 授業時間外学習：参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。

Participants should carefully read the paper in advance.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：絵巻物研究

2. Course Title (授業題目) : Study on Picture scrolls

3. 授業の目的と概要：古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「石山寺縁起」七巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」(元曉絵三巻・義湘絵四巻)、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students take up the picture scrolls important for considering the relationship between ancient medieval Buddhist thought and art, and carefully read the captions (narrative texts). Through that, students try to read the meaning contained in the painting expression. The object of the study is mainly the picture scrolls of "Jisha-engi" and "Sosi-eden".

5. 学修の到達目標：絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students acquire the skill for understanding painting expression and narrative texts, and the skill for finding related materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*u です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

8. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術資料を読む

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」するプログラムである。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかないとい一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠であり、それは「トレーニング」の方法次第で成し得ると講師は考える。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもないだろう。

他専修生にとってもこのような授業は経験したことがないと思われ、未開発の能力が開花する可能性もあるので歓迎したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides programs of training to read information on Japanese art work. It helps students learn about the differences between Japanese art work by comparison and appreciate them.

5. 学修の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報を引き出すことはできない。

そこで本講は、作品を置き去りにしないために、対象に即して読み取るべき情報とは何かを考え、その優先順位を見極め、さらにそれを的確な言葉で表現する能力の養成を目的とする。作品から情報を読み取る「インプット」と、それを第三者に伝える「アウトプット」の両面を重視し、単に美術作品にとどまらない情報収集能力と説明能力の向上を目指す。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read information on art work and explain their thoughts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行ってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は講師が作品について論じる。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 絵画

5 回目 刀装具

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 絵画

9 回目 和鏡

10 回目 絵画

11 回目 陶磁器

12 回目 絵画

13 回目 受講生による作品の比較発表

14 回目 受講生による作品の比較発表

15 回目 受講生による作品の比較発表

8. 成績評価方法：

事前にクラスルームに掲げる画像を予習として分析しておき、授業当日に行う質疑内容によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

## 9. 教科書および参考書：

### 【参考書】

#### ◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

#### ◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010年代）

**10. 授業時間外学習：** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

### 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

### 12. その他：なし

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB52207, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学修の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：長岡 龍作, 杉本 欣久

コード：LB62208, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学修の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB51303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代の大仏造立を取り上げ、その意義を述べる。そして、その後は大仏造立が生み出した仏教思想との関わりから、以降の時代の美術とその意義を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学修の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり1 「日本美術史」の成立
3. 「日本美術史」のはじまり2 「日本美術史」の展開と相対化
4. 奈良時代の大仏とその世界1ー大仏造立の意義
5. 奈良時代の大仏とその世界2ー大仏と観音菩薩
6. 奈良時代の大仏とその世界3ー大仏と正倉院宝物
7. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる1ー観音菩薩
8. 善財童子の旅ー善知識を訪ねる2ー文殊菩薩と普賢菩薩
9. 鑑真と唐招提寺の仏像1ー不空羼索観音と薬師如来
10. 鑑真と唐招提寺の仏像2ー金堂の仏像
11. 悔過と仏像1ー秋篠寺と延暦寺
12. 悔過と仏像2ー神護寺薬師如来像の世界
12. 悔過と仏像3ー十一面観音像
14. 空海と仏像1ー東寺の仏像
15. 空海と仏像2ー高野山の仏像

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、東大寺大仏と清凉寺釈迦の関係が導く宗教的な意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、先の二者の関係を踏まえた観点から探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学修の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは\*\*\*\*です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題

2. 北宋美術の諸相1ー開封と杭州

3. 北宋美術の諸相2ー舍利塔地宮の世界

4. 清凉寺釈迦如来像の世界1

5. 清凉寺釈迦如来像の世界2

6. 清凉寺釈迦如来像の世界3

7. 摂関期の信仰と美術1ー浄妙寺と法成寺

8. 摂関期の信仰と美術2ー平等院鳳凰堂

9. 院政期の信仰と美術ー法勝寺と中尊寺

10. 重源の思想と美術1ー東大寺大仏再興

11. 重源の思想と美術2ー別所の造形

12. 鎌倉時代南都の美術1ー釈迦如来

13. 鎌倉時代南都の美術2ー弥勒菩薩

14. 戒律復興と美術1ー貞慶

15. 戒律復興と美術2ー叡尊

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像ー祈りと風景』（敬文舎）2014年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学修の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵
- 3回目 狩野派の系譜1(御用絵師・正信から元信へ)
- 4回目 狩野派の系譜2(永徳と桃山の大家)
- 5回目 狩野派の系譜3(江戸狩野と英派)
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 8回目 尾形光琳と乾山
- 9回目 対外交渉と長崎派
- 10回目 沈南蘋と南蘋派
- 11回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 12回目 刀装具と鐔の意匠性
- 13回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 14回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 15回目 京都の雪舟流と漢画の復古

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

**1 0. 授業時間外学習:** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他:** なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学修の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 江戸絵画の「真」「贋」一研究に立ちふさがる壁一
- 2回目 江戸と浮世絵1一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 武士の絵画1一鑑戒一
- 6回目 武士の絵画2一暢神一
- 7回目 京都と円山派1一円山応挙一
- 8回目 京都と円山派2一応挙の門人たち一
- 9回目 京都と四条派一蕪村、呉春とその門人一
- 10回目 天下の台所・大坂の絵画
- 11回目 江戸の絵画1一18世紀の絵画状況と谷文晁の登場一
- 12回目 江戸の絵画2一洋風画(司馬江漢・渡辺華山)一
- 13回目 東北の画人たち
- 14回目 好古家と考古学の黎明
- 15回目 伊藤若冲一その真実を探る一

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

**1 0. 授業時間外学習：** 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：塚本 鷹充

コード：LB98806, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国書画の鑑賞と鑑識
2. Course Title (授業題目)：Connoisseurship Studies of Chinese Painting and Calligraphy
3. 授業の目的と概要：中国美術は書画を中心に、青銅器や玉、陶磁器、文房具、漢籍をふくんだ豊かな「古物」の世界として発展してきました。本講義ではそれらの基礎的な見方や様式的な理解を身に付け、自分で十分に鑑賞できるようになったあとで、なぜそれらがアジア社会のなかに存在してきたのか、そしてこれからの社会にどのような意味を持っているのかを考えることを目的とします。そのために中国美術史の認識の発展、博物館や大学、美術史家といった制度、近代とアジアの関係などの視点を中心に、中国美術の存在そのものの意味を問い直してみたいと思います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on taking connoisseurship of Chinese Painting and Calligraphy though ancient times to modern era 21th century. The field of this class, including not only painting and calligraphy, but ritual items, like bronzes and ceramics, publish culture, it will take up discussion for whole recognizing of Chinese Art world. Student will learn not only outline of Chinese Art history, but how it was collected, preserving, and the role of Chinese object in East Asian society.
5. 学修の到達目標：中国美術の基礎的な様式、概念、鑑識方法を習得する  
中国美術がアジア全域にわたって存在している意味を考察する  
作品を楽しく鑑賞できるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Recognizing the importance of connoisseurship on Chinese art history  
Making full use of the skills, obtain new perspectives for East Asian history  
Observing objects and materials
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1、イントロダクション1 「中国美術」研究をふりかえるー日本、欧米、中国、台湾ー
  - 2、イントロダクション2 博物館と中国美術ー見る、集める、展示するー
  - 3、気の芸術 秦漢から六朝時代の造型と芸術論
  - 4、五代から北宋へー山水画の成立ー
  - 5、首都開封の建設と皇帝の文物（啓聖禅院・大相国寺、開宝寺舎利）
  - 6、郭熙山水の達成と李郭派の系譜
  - 7、（二玄社の複製をみよう）
  - 8、徽宗画院から南宋へー詩情と写実ー
  - 9、南宋絵画と日本ー東山御物から大名コレクション、地方美術館へー
  - 10、元代の文人画ー東洋のルネサンスー
  - 11、明代の絵画ー呉派と浙派、奇想派ー
  - 12、東洋絵画の技法と材料ー絹・紙・墨・顔料・染料・金ー
  - 13、清朝の美術ー乾隆帝の文化帝国ー
  - 14、近現代の美術ー東アジア美術と「近代」の受容ー
  - 15、「あいだ」と「はしっこ」の美術史ー台湾美術と東アジア美術史の可能性ー
8. 成績評価方法：  
レポートと平常点
9. 教科書および参考書：
  - ・『世界美術大全集 東洋編』1～9、小学館、『故宫博物院』第1～5巻、NHK出版協会
  - ・『日本美術全集 11巻 東アジアのなかの日本美術』小学館、2015年
  - ・『上海博物館 中国絵画の至宝』東京国立博物館、2013年
  - ・『中国書画探訪ー関西の收藏家とその名品』曾布川寛、中国書画コレクション研究会編、二玄社、2011年
  - ・『中国絵画入門』宇佐美文理、岩波新書、2014年そのほか、授業中に適宜紹介します
10. 授業時間外学習：授業中に指示します
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし